



肥料施用量を削減するうね立て同時部分施用法

研究のねらい

キャベツ・ハクサイ等土地利用型野菜生産において、生産コストの低減及び環境保全的観点から、化学肥料や化学合成農薬の使用量を大幅に削減するための施用法を開発する。

成果の内容

- ①うね立て同時部分施用法は、野菜苗移植前のうね立て時に肥料や農薬をうね内に帯状に施用する方法である(図1)。
- ②トラクタ装着型の「うね立て同時部分施用機」を用いることによって、うねの上部中央の移植位置の近辺に肥料や農薬を土と混合施用することができる(図2)。
- ③キャベツ作において、全面全層施用時の70%量の粒状化成肥料を、うね内に帯状に部分施用することによって、慣行の全面全層施用時と同等以上の結球重が得られ、単位圃場面積当たりの施肥量を30%削減することができる(図3)。
- ④慣行の全面全層施用作業体系におけるライムソアまたはブロードキャスト等を用いた肥料・農薬散布作業が省略でき、作業体系を簡略化できる(図4)。

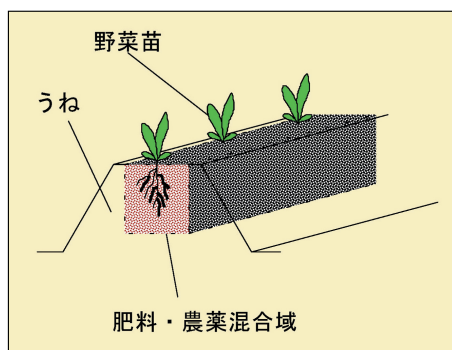


図1 うね立て同時部分施用法



図2 うね立て同時部分施用機とうね内の肥料・農薬混合域

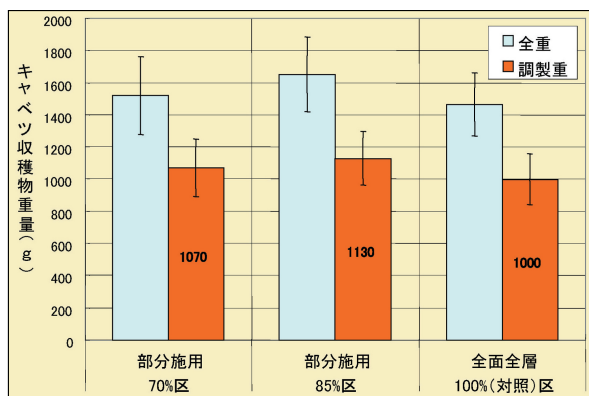


図3 うね立て同時部分施用法による収穫物重量 (岩手県八幡平市の農家圃場、キャベツ)

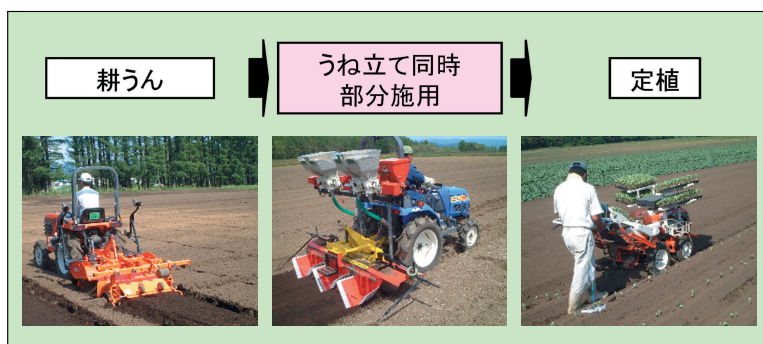


図4 うね立て同時部分施用法による作業体系

成果の利活用

- ①キャベツやハクサイ等、葉菜類のうね立て・移植栽培に適用できる。
- ②根こぶ病防除のためのフルスルファミド粉剤を同時に施用できる。
- ③「うね立て同時部分施用機」は平成18年度に市販化の予定である。

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
 東北農業研究センター
<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/>

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4
 TEL 019-643-3414(企画管理部情報広報課)
 FAX 019-643-3588